令和８年第９回定例教育委員会

令和８年９月２８日（月）午後４時００分
江別市教育庁舎　大会議室

出席者	教育長	黒　川　淳　司	説明員	教育部長	佐　藤　　学
	委　員	麓　　美　絵		教育部次長	廣　田　　修
	委　員	新　館　忠　義		学校教育支援室長	稲　田　征　己
	委　員	兼　子　弘　詔		総務課長	松　井　謙　祐
	委　員	松　田　久　美		総務課主幹	清　水　孝　則
				学校教育課長	水　口　　武
				教育支援課長	前　田　佑　介
				給食センター長	三　浦　　洋
				生涯学習課長	星　野　　真
				スポーツ課長	松　井　正　行
				情報図書館長	佐　野　之　範
			記録員	総務課総務係長	本　田　拓　也
			傍聴者	なし	

１　報告事項
（１）令和８年第３回江別市議会定例会の一般質問について
（２）令和８年度全国学力・学習状況調査の結果について
（３）令和７年度江別市学校教育基本計画（第３期）推進状況報告書について
（４）令和７年度江別市社会教育総合計画（第１０期）推進状況報告書について
（５）令和７年度江別市スポーツ推進計画（第７期）推進状況報告書について
（６）江別市地域学校協働活動推進員のモデル校区への配置について
（７）令和８年度小中学生国内交流研修事業について

２　その他
○次回教育委員会予定案件について
○令和８年第１０回定例教育委員会の日程について

会　　議　　録	
	（開会）
黒川教育長	ただいまから、令和８年第９回定例教育委員会を開会いたします。 本日の議事日程は、配付のとおりであります。 会議に先立ち、本日の会議録署名人を兼子委員にお願いいたします。 それでは、議事に入ります。 １の報告事項（１）令和８年第３回江別市議会定例会の一般質問についての報告を求めます。 佐藤教育部長お願いします。
佐藤教育部長	令和８年第３回江別市議会定例会の一般質問についてご報告いたします。 資料１ページをご覧願います。教育委員会関係分は、９月９日および１１日に、記載の計４名の議員から、一般質問がありました。 資料２ページをお開き願います。はじめに、干場議員から、「小・中学校の女子トイレに生理用品を常備することについ　て」、２点質問があり、１点目の「生理に関する女子児童生徒アンケート調査結果について」への答弁では、冒頭、昨年度に実施した生理に関するアンケートから、生理用品の受け取り方や、悩み相談の場としての保健室の認知度などの課題について把握したこと、などに触れ、今年度小中学校４校で生理用品を試行的に配置する取組と合せて、生理用品の管理や保健室の役割についてのポスター掲示を行っているところである、と答弁しております。２点目の「常備に対する考えについて」への答弁では、養護教諭などの教員が児童生徒から直接話を聞き、心身の状態や家庭環境などを把握することは重要であることや常備する場合の教員の業務負担軽減に触れ、現在実施している試行的な配置を通じて、課題等を検証していく、と答弁しております。再質問に対する答弁は記載のとおりです。 次に、資料３ページの中段に進みまして、「学校給食における民設民営方式の導入について」、３点質問があり、１点目の「使用する農産物について」への答弁では、冒頭、ＪＡ道央や農業生産法人と協議を行い計画的に地場産野菜を購入してきていることに触れ、民設民営方式導入時には要求水準書に具体的な数値を盛り込み、地場産食材の活用を維持していくこととしている。有機農産物を給食で活用することについては、害虫や病気による被害を受けやすく収穫量が不安定になり、当市の児童生徒数に必要な量の確保などの課題があり難しいと認識している、と答えています。２点目の「安全な食材について」への答弁では、給食センターでは、給食用食材選定基準において、遺伝子組み換え食品は使用しないことや、生鮮品の使用順位は、江別産、道内産、国内産の順を基本として選定するなど、５つの項目を定めており、今後作成する要求水準書に、この食材選定基準の遵守について記載し、安全安心な給食を提供していく、答えています。３点目の「アレルギー対応について」への答弁では、冒頭、民設民営方式導入後のアレルギー対応について、対応品目の拡大や代替食、除去食等の効果が期待できることに触れ、中学校だけでなく小学校も対象とすることについては、小中学校で献立が別々になることや、個別の配送手段の確保などの課題があり、小学校を対象とすることは難しい、答えています。再質問に対する答弁は記載のとおりです。 次に、資料５ページ下段に進みまして、「学校給食用食器について」、２点質問があり、１点目の「学校給食用食器検討委員会における検討経過について」への答弁では、昨年１２月に設置した学校給食用食器検討委員会のこれまでの検討状況、児童生徒、保護者の意見募集について触れ、７月に開催された検討委員会でＰＥＮ樹脂製食器の使用が適当であると全会一致でまとまったところであり、今後意見書が提出される予定である、と答えています。２点目の「地元陶芸家の陶器を活用した取組について」への答弁では、選択給食で使用していた、地元陶芸家が制作した陶器は、リザーブ給食の実施に伴い、現在使用していない状況であることに触れ、物を大切にする心や郷土愛など、食育としての意義があるものと考えていることから、今ある陶器の活用について、小中学校とも相談していく、と答えています。再質問に対する答弁は記載のとおりです。 次に、資料７ページに進みまして、三吉議員から、「情報図書館分館における夏期の環境整備について」、２点質問があり、１点目の「現在の暑熱対策の効果と課題について」への答弁では、情報図書館江別分館、大麻分館の利用状況や、暑熱対策に触れた上で、これまでの対策により、一定程度効果があったと考えているが、夏期雨天時の温湿度の上昇に伴

	う図書資料の適正な保存への対策のほか、館内のさらなる暑熱対策など、利用者の視点に立った対策が必要になるものと考えている、と答えています。２点目の「今後の環境整備について」への答弁では、令和６年に公民館ロビーにエアコンを設置したことに触れた上で、まずは、今後、小中学校で余剰となることが見込まれるスポットクーラーなどの冷房備品の増設等を進めていく、答弁しております。再質問に対する答弁は記載のとおりです。 　次に、資料８ページに進みまして、石川議員から「森林キャンプ場の在り方について」、２点質問があり、１点目の「現状の認識と今後の施設運営について」への答弁では、冒頭、森林キャンプ場の利用者の評価や、利用ニーズが広がりも見られること、令和７年度の利用者数について触れ、より多くの方々に利用いただくためには、猛暑などの気象条件や野生動物への対策、施設の老朽化に伴う計画的な整備が課題となっている。施設運営にあたっては、玩具等の貸し出しや冷水扇風機の設置など、利用促進につながる新たな取組も展開しており、今後においても、都市近郊にある「静寂と自然」という価値を大切にしながら、指定管理者と連携し、きめ細やかなサービスの提供に努めていく、と答えています。２点目の「今後の施設整備と活用について」への答弁では、議員提案の水循環式自己完結型トイレは、災害発生時に災害用トイレとして、迅速に活用できる機能を備えていると認識しているが、森林キャンプ場に整備することについては、寒冷地での利用実績がないことや、費用、移動時の道路幅員の問題など、様々な課題がある、と答弁しております。再質問に対する答弁は記載のとおりです。 　資料９ページに進みまして、最後に、野村和宏議員から「小・中学校における郷土愛を育む教育について」、４点質問があり、１点目の「小・中学校における郷土愛を育む教育について」への答弁では、冒頭、法令や学習指導要領、さらに市の学校教育基本計画に触れた上で、郷土愛の育成については、江別の子どもたちが、心豊かにたくましく生き抜いていく力を身に付けるために、必要な教育であると考えている、と答えています。２点目の「具体的・系統的な郷土愛教育について」への答弁では、道徳や社会科、総合的な学習の時間において、郷土を愛する心を育むことや郷土の発展に努める態度を養うことを学んでいることに触れ、当市では、恵まれた地域資源を生かし、あらゆる分野に携わる、多くの方々にご協力を得ながら、発達段階に応じた系統的な教育を通じて、郷土愛の育成に努めている、と答弁しております。３点目の「郷土愛教育を行う上での教員への支援・指導について」への答弁では、教員への支援として、小中学校管理職や初任段階研修において、江別のまちを紹介する取組や、各校に対し、地域の魅力をテーマとした研修会や江別まち検定などを紹介していることなどに触れ、教員が、江別の歴史や文化、自然、産業、地域社会などを学び、理解した上で、児童生徒に伝えていくことは重要であり、今後も様々な機会を通じて、教員に対する情報提供に努めていく、と答弁しております。４点目の「郷土愛教育の今後の取組について」への答弁では、「江別市子どもが主役のまち宣言」や、地域学校協働活動推進事業などの取組が、地域で郷土愛を育成するための機運を、さらに高めていくものと考えており、今後においても、地域と連携しながら、郷土に触れる実践的な学びに取り組んでいくとともに、子どもたちが、ふるさと江別で育ったことを生涯の誇りとし、どこにいても心でつながり続けられるよう、郷土愛の育成に努めてまいりたいと、教育長の見解を述べております。再質問に対する答弁は記載のとおりです。 　以上です。
黒川教育長	ただいま報告のありました、令和８年第３回江別市議会定例会の一般質問について、質問等がございましたらお受けします。 　（質疑なし） 　それでは、本報告について終了してよろしいですか。 　（一同了承） 　次に、報告事項（２）令和８年度全国学力・学習状況調査の結果についての報告を求めます。 　水口学校教育課長お願いします。
水口学校教育課長	報告事項（２）令和８年度全国学力・学習状況調査の結果についてご報告申し上げます。 　はじめに、毎年行われる全国学力・学習状況調査について、本年度は、４月から５月にかけて行われ、このたび、集計結果を取りまとめましたので、その内容をご報告するものであります。 　資料１ページをご覧願います。「Ⅰ調査の概要」の「１調査の目的」は、記載のとおりで

	あります。次に、「２調査の対象学年及び調査を実施した学校・児童生徒数」は、小学６年生及び中学３年生を対象に、市内全２５校で実施されました。次に、「３調査の内容」でありますが、（１）教科に関する調査は、小学６年生が国語と算数の２教科、中学３年生が国語と数学と英語の３教科であり、（２）質問紙調査では、児童生徒と学校、それぞれに対する調査が行われました。なお、今回は、中学校の英語がオンライン方式で実施されました。次に、「４調査方式」及び「５調査期日」は、記載のとおりであり、資料２ページにお進みいただき、「６調査結果の解釈等に関する留意事項」でありますが、本調査の結果は、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえる必要があります。次に、「Ⅱ結果の概要」について、はじめに、「１教科に関する結果の概要」でありますが、小学６年生は、国語で全国平均を上回りましたが、算数は下回りました。なお、２教科とも全道平均を上回りました。次に、中学３年生は、国語と数学で全国平均を上回りましたが、英語は全国平均を下回りました。なお、３教科とも全道平均を上回りました。また、評価の観点の「思考・判断・表現」と問題形式の「記述式」において、小学校の国語、中学校の国語及び数学で全国平均を上回りました。次に、「２質問調査に関する結果の概要」について、何点かご説明いたします。１点目の、「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」割合は、小学校が１００％でありましたが、中学校は８７．５％であり、小学校で全国平均を上回りました。２点目の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」割合は、小中学校ともに全国平均を大きく上回りました。各校において、いじめ撲滅の取組をはじめ、早期発見、早期対応の取組を進めておりますが、この数値は、今後も１００％を目指して取り組んでいく必要があります。３点目の「自分には良いところがあると思う」割合と、「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う」割合は、ともに、小学校で全国を上回り、中学校は全国平均と同等でした。いずれの数値も昨年度より伸びており、引き続き各校での取組を充実させていく必要があると考えております。一つ飛びまして、５点目の「ＩＣＴ機器を活用した授業を週３回以上行った」割合は、学校質問紙で１００％であったほか、児童生徒質問紙でも高く、全国平均を上回る結果となり、タブレット端末が多くの場面で活用されていることがわかりました。 資料３ページをご覧ください。二つ目の丸について、「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動などの取組が、地域及び家庭の課題解決や地域活動の担い手育成に貢献していた」割合と「学校と地域や保護者との相互理解が深まっている」割合は小中学校ともに１００％でした。なお、これらを通じて、学校運営や教育活動に意見表明を行うことができる取組を行った割合は、小学校で全国平均を上回っておりますが、中学校では下回り、小中学校で傾向の違いが見受けられました。次に、「３令和元年度からの平均正答率の経年変化」でありますが、こちらは、小中学校別に、全国平均を１００とした時の経年変化をグラフにしたものであります。なお、小中学校の理科と、中学校の英語は、毎年の実施ではないため、実施年を点線で結んでおります。また、経年変化の概要は、下の枠に記載のとおりであり、５教科中３教科で全国平均を上回る結果となりました。 資料４ページをご覧願います。次に、「Ⅲ各教科の結果」でありますが、結果については、資料４ページから１４ページにかけて記載しております。こちらには、小中学校の教科ごとに、正答数の分布グラフのほか、江別市・北海道・全国の平均正答数と平均正答率、学習指導要領の領域別の設問数と平均正答率、また、全国平均を１００としたときの領域別経年変化を表とグラフでお示ししております。例えば、資料４ページの小学校国語の正答数分布グラフでは、棒グラフで表示した江別市の正答率は、横軸の正答数が多くなるほど、北海道と全国平均の折れ線グラフを超えている状況にあります。また、各教科のページの下段には、各校における今後の指導の参考となるよう、市教委の指導主事により、＜正答率の低い設問及び学習指導の改善点＞を記載しておりますので、後ほどご参照願います。 そのほか、資料５ページには、【全国平均を１００と見たときの領域別経年変化】として、各領域別に令和５年度からの経年変化をお示ししております。 資料６ページ以降、小学校算数、中学校国語、数学の結果が続きますが、次に、中学校英語の結果を記載した、資料１２ページをご覧願います。「５中学校英語」でありますが、今年度オンライン方式で行われ、その結果は、ＩＲＴという国際的な学力調査等で採用されている手法で分析されました。問題構成は、生徒一人あたり、公開問題が１０問、非公開問題が１２問出題され、公開問題に係る分析結果を下の表とグラフにお示ししておりま

	す。なお、この手法のメリットとして、調査日の複数設定が可能になり、各児童生徒が異なる問題を解く設定にできるほか、これまでより、多くの問題を使用して、幅広い領域・内容等での調査が可能になるとされております。また、来年度からは、小中学校全ての教科でオンライン方式による調査となり、このＩＲＴに基づく分析結果で示される予定とされております。以上、学力に関しては、小中学校ともに、全国平均を下回った教科もありますが、全教科で全道平均を上回るなど、概ね良い結果であったと考えております。しかしながら、個別に見ると、平均に届いていない児童生徒もおりますことから、教育委員会といたしましては、引き続き、学習サポート教員の派遣等の人的支援を効果的に活用するなど、各学校において、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導・支援を行ってまいりたいと考えております。 　資料１５ページをご覧願います。「Ⅳ質問紙調査の結果」でありますが、「１児童・生徒質問紙」は、児童生徒の生活習慣や学習習慣などの質問に対する回答結果であり、１５ページから１８ページにかけて、（１）生活習慣から（７）ＩＣＴ機器の活用までの７項目について、特徴的なものを記載し、併せて、改善に向けた取組を四角二重線の囲みに記載しております。なお、表中の全国比の増減が５ポイント以上の場合は太字にしております。はじめに、（１）生活習慣の③平日、１日当たり「１時間以上ＳＮＳや動画視聴をしている」の設問でありますが、前回の設問が令和６年度であり、この時との比較になりますが、小学６年生で令和６年度５３．４％から本年度８４．７％に３０ポイント以上増加し、中学３年生でも７７．１％から９２．７％に１５ポイント以上増加しました。一方、全国平均で見ると下回っていることから、全国的に１時間以上のＳＮＳや動画視聴は日常的になっていることがうかがえます。 　資料１６ページをご覧願います。（３）自己肯定感に関する三つの設問は、市の総合計画等の指標として設定するなど、市教委としても重視している設問であります。①「自分には良いところがあると思うか」の設問では、肯定的な回答をした割合が、小学６年生が８７．４％、中学３年生が８４．５％であり、昨年度と比べると小中学生ともに増加いたしました。また、その下の②「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思うか」、③「将来の夢や目標を持っているか」の設問でも、小中学校ともに昨年度を上回る結果となりました。市教委といたしましては、小中一貫教育の取組などを通じて、引き続き児童生徒の自己肯定感の醸成に努めてまいります。 　資料１７ページをご覧願います。次に、下段の（６）思いやりの①「いじめは、どんな理由があってもいけないと思うか」の設問では、小学６年生が９１．９％、中学３年生が８６．１％となり、小学生は昨年度を上回り、中学生は下回りましたが、全国比で見ると、小中学生ともに大きく上回っております。また、令和７年度の全国平均と比較しても増加しており、各校における、いじめ防止基本方針の共有や、これに基づく日々の組織的な対応・取組の成果が着実に表れてきているものと考えております。 　資料１８ページをご覧願います。次に、（７）ＩＣＴ機器の活用でありますが、①「学校の授業でＩＣＴ機器を週３回以上使用した」割合が、小中学生ともに全国比を上回り、⑤「ＩＣＴ機器を使ってプレゼンテーションを作成することができる」割合も、小中学生ともに全国平均を上回りました。市内の小中学校では、ＩＣＴ機器の活用が進んでいる状況にあり、今後も学習手段の一つとして位置付け、学習のねらいを達成するためのツールとして、今後も有効活用していくことが大切であると考えております。 　資料１９ページをご覧願います。「２学校質問紙」は、１９ページから２２ページにかけて、学校の教育活動等について学校が回答した結果のうち、（１）学習規律から（１１）家庭や地域との連携までの１１項目について、特徴的なものを記載し、併せて、改善に向けた取組を四角二重線の囲みに記載しております。全体的に、全国比を上回る結果となっており、２２ページをご覧いただきたいと存じますが、中段の（１０）小学校教育と中学校教育の連携では、令和５年度から市内全域で実施されている小中一貫教育の様々な取組により、１００％となり、全国比を大きく上回っているほか、（１１）家庭と地域の連携でも、コミュニティ・スクールに関する二つの項目で全国比を上回る結果となりました。 　資料２３ページをご覧願います。２３ページから３８ページは、児童・生徒質問紙と学校質問紙の項目について、抜粋したものをグラフにして掲載しており、全国平均よりも＋５ポイント以上を太字、全国平均よりもー５ポイント以下を網掛けとしておりますので、後ほどご参照願います。

	最後に、３９ページをご覧願います。「Ｖ江別市学校改善支援プラン」でありますが、まず、上段の、明らかになった課題の主なものとして、「１全国学力・学習状況調査等の学力検査の結果」からは、教科別に、国語では、「根拠を明確にして説明したり書いたりする」力が弱いため、本に親しみ、ノートにしっかりと文字を書いたりするほか、自分の考えを説明する機会を意識的に増やしたりすることが課題として挙げられます。また、算数・数学では、「データの活用力」が弱いため、表やグラフの読み書きを強化するための指導が必要であること、そのほか、英語では、小学校から中学校になると調査の正答率が下降傾向にあるため、小中学校でお互いの授業を参観したり、指導方法を情報交換・共有したりすることなどが課題として挙げられます。次に、２点目の、児童生徒質問紙からは、自尊意識を問う設問において、小中学校ともに全国平均を上回っており、今後も、児童生徒一人一人の良さや可能性を見出し、また、それらを発揮できる場を設定し、自己肯定感等を高める教育を続けていく必要があります。なお、資料の下段の左側は、課題解決に向けた学校の取組、右側は、学校に対する教育委員会の支援であり、主なものとして、小中一貫教育の推進に係る支援や、学習サポート事業などの人的支援などがあります。 最後に、本件は、来月の校長会議において情報共有を行い、今後も市教委と学校が連携・協力しながら、学習状況等の改善を図っていきたいと考えております。また、調査結果は、後日ホームページで公表する予定です。 報告は、以上であります。
黒川教育長	ただいま報告のありました、令和８年度全国学力・学習状況調査の結果について、質問等がございましたらお受けします。
松田委員	結果が精緻化されたのはＩＲＴという国際的な指標を用いたことが影響しているのかと思いますが、このＩＲＴについて２点伺います。まず、ＩＲＴとは何かの頭文字を３つ並べたものだと思うのですが、何の単語の頭文字でしょうか。
水口学校教育課長	大変申し訳ございませんが、ＩＲＴが何の単語の頭文字を並べたものかの資料は手元にございません。
松田委員	ＩＲＴの利点について、調査日を複数設定できることをあげていらっしゃいましたが、聞き漏らしてしまったのでもう一点についておしえてください。
水口学校教育課長	国の資料によりますと、ＩＲＴのメリットとして、まず一点目は調査日の複数設定が可能になって、児童生徒が異なる問題を解く設定にできるということです。二点目は、今まで以上に多くの問題を使用して幅広い領域と内容での調査が可能になることで、これについてはすべての児童が同じ問題を解くのではなく、いろいろな問題をいろいろな児童生徒に振り分けて出題して解くことができるという観点のものです。三点目として、学力の経年変化を各教育委員会や学校で把握できるといったメリットも掲げられております。
松田委員	２ページの「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う割合」が全国平均を上回ったということはとても望ましいことかと思います。４年連続１００％というのは具体的な数値としてインパクトのある数値かと思いますが、江別市の小学校に落ち着いた状態をもたらしている要因はどのようなことが考えられるでしょうか。
水口学校教育課長	地域性などもあるかとは思いますが、学校の教育活動における先生の頑張りですとか、児童生徒・保護者と連携して教育にあたっている結果と考えております。一方で、中学校においては令和７年度まで５年連続１００％だったのですが、今回１校が該当から外れることによって、８７．５％に下がったということがございます。
松田委員	児童生徒を引きつけて素晴らしい授業をしているが故に出てきた数値かと推測しております。
麓委員	結果を見ての感想を述べさせていただきます。１９ページの学校質問を見ると、どの項目も数値が高くて、先生たちが自信を持って教育をしてくれているんだなという結果を見てうれしく思いました。先生たちの自己肯定感が上がると、子どもたちもそこについていくのかなと感じましたのでとてもいい結果だなと思いました。特に小中一貫教育に取り組んでいるということが少しずつ数値に表れてきているというところで、子どもたちの自己肯定感が上がってきているというところも見えてきてとてもうれしく思います。学習面については、一保護者として不安に思っていることがあります。３９ページで、国語に関して「ノートのマス目にしっかりと文字を書いたり、漢字の読み書きが身につくことを丁寧に行う」ということがあげられているのですが、自分の子どもの学習の様子を見ていても、課題がタブレットに偏りがちであったり、作文もタブレットで提出するなど、紙に字を書

	いたり自分の字を見直すという機会が明らかに少なくなっていることが、親として不安に思っているところでもあります。少し字が雑になっているのではないかと感じることもあり、紙に自分の字を書いて自分で見直すという機会が減らないといいなと感じております。学校の取組としてはそこに重きを置いているのかどうなのか、正直疑問に思う、というのが個人的な意見です。
水口学校教育課長	ご意見ありがとうございます。書くことというのは非常に重要なことであると考えております。一人一台タブレット端末が配付され、ＡＩドリルなどで漢字を書いて、「止め、払い、はねる」をしっかりとしないままでもＡＩドリルは○で採点してしまうという話を学校の先生がお話しされていたことを思い出したところです。機器を活用することも重要なのですが、紙には紙の良さがあり、ノートに書く重要さを学校としては認識されているかと思います。資料３９ページなどを通して教育委員会からも学校にしっかりと伝えてまいりたいと考えております。
黒川教育長	そのほか質問はございませんか。 （質疑終了） それでは、本報告について終了してよろしいですか。 （一同了承） 次に、報告事項（３）令和７年度江別市学校教育基本計画（第３期）推進状況報告書についての報告を求めます。 水口学校教育課長お願いします。
水口学校教育課長	報告事項（３）令和７年度江別市学校教育基本計画（第３期）推進状況報告書について、ご報告申し上げます。 第３期江別市学校教育基本計画は、学校教育における目標や施策の方向性を示す、令和６年度から令和１０年度までの５年間の計画であります。本計画の推進にあたっては、計画の実効性を確保し、より効果的に施策を推進するため、ＰＤＣＡサイクルの考え方に基づき、点検・評価を行い、着実に計画を進めることとしておりますことから、令和７年度における「成果指標」の動向・分析と次年度の推進の方向性について、ご報告するものであります。 資料１ページをご覧願います。報告は、主に、各ページの下段の枠内に記載の、「前年度の取組内容や次年度の推進の方向性」で行ってまいります。はじめに、基本目標１：確かな学力と新しい時代に必要となる資質・能力の育成でありますが、市教委では、指導主事が全ての小中学校を訪問し、各学校が作成した「学校改善プラン」の指導・助言を行うとともに、学習サポート教員や外国語指導助手の派遣などの人的支援に努めてまいりました。その結果、成果指標１－①「授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいた児童生徒の割合」及び1－②「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合」は、計画策定時の基準である令和４年度の現状値を上回りましたが、令和６年度からは下回る結果となりました。今後におきましても、必要な人的支援の継続と、ＩＣＴの効果的な活用等を通じて、確かな学力の定着を図る教育を推進してまいります。 資料２ページをご覧願います。次に、基本目標２：豊かな心と健やかな体を育成する教育の推進についてでありますが、市教委では、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を目的に、いじめアンケート調査等を行い、いじめの組織的な対応に努めたほか、様々な悩みや課題を抱える児童生徒や保護者を支援するため、スクールソーシャルワーカーが、学校・福祉・医療などと連携して課題の解決に向けて取り組みました。また、小中一貫教育などによる自己肯定感の向上や、職場体験等による社会的・職業的自立に向けた能力や態度の育成に努めるとともに、市内大学と連携した体力向上プログラム出前授業、走り方教室を実施し、児童生徒の体力向上に努めました。その結果、成果指標２－①「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合」は、令和６年度を上回りましたが、２－②「自分には、良いところがあると思う児童生徒の割合」は、令和６年度と同じ、また、２－③「運動が好きな児童生徒の割合」は、下回りました。今後におきましても、いじめの早期発見と見逃さない姿勢を徹底し、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう努めるとともに、自己肯定感の向上に向け、小中一貫教育の推進等を通じて、子どもの心身の健康の保持・増進を図ってまいります。 資料３ページをご覧願います。次に、基本目標３：良好な教育環境の整備でありますが、市教委では、ＧＩＧＡスクール構想に基づき整備した、タブレット端末の更新を進めたほ

	か、授業支援アプリを導入し、児童生徒の情報活用能力の系統的な育成と個別最適な学びの充実を図り、校務への生成ＡＩの導入などにより、教職員の業務の効率化を図りました。また、学校図書館では、蔵書率の向上に取り組むとともに、学校司書の巡回配置に加え、学校要望に応じた随時支援により、環境整備を進めました。その結果、成果指標３－①「オンライン会議システムを用いて、児童生徒と意思疎通を図りながら、双方向の授業を進行することができる教員の割合」及び３－②「学校図書館図書標準を達成している学校の割合」ともに、現状値を大きく上回っておりますが、３－①は、令和６年度を若干下回り、３－②では、同じ割合となりました。今後におきましても、引き続き、良好な教育環境の充実に向け、ＩＣＴ環境整備、学校図書館の蔵書整備に努めてまいります。 資料４ページをご覧願います。次に、基本目標４：地域とともにある学校づくりの推進でありますが、各中学校区では、目指す子ども像を学校・家庭・地域で共有しながら、小中９年間の一貫した指導や系統的な指導に取り組んだほか、学校一斉公開の実施や地域ボランティア等の派遣、えべつ型コミュニティ・スクール事業の推進等により、学校活動への参画促進に取り組み、こうした取組をホームページで紹介してまいりました。その結果、成果指標４－①「学校、家庭、地域が連携していると思う市民割合」は、令和６年度を上回る結果となりました。今後におきましても、小中一貫教育をはじめ、学校・家庭・地域が一体となって、義務教育９年間を通して目指す子ども像の実現に向けた教育を推進してまいります。 最後に、各成果指標について、計画期間の終期である令和１０年度の目標達成に向けた現状の推移でありますが、各指標の右端の目標値の欄に矢印で現状値からの向上や維持の方向を示しており、概ね堅調に推移しておりますが、計画期間での目標達成に向け、現在の取組を着実に進めてまいりたいと考えております。なお、本日報告した内容は、市のホームページに公表する予定であります。 報告は、以上であります。
黒川教育長	ただいま報告のありました、令和７年度江別市学校教育基本計画（第３期）推進状況報告書について、質問等がございましたらお受けします。 （質疑なし） それでは、本報告について終了してよろしいですか。 （一同了承） 次に、報告事項（４）令和７年度江別市社会教育総合計画（第１０期）推進状況報告書についての報告を求めます。 星野生涯学習課長お願いします。
星野生涯学習課長	引き続き私から、報告事項（４）令和７年度江別市社会教育総合計画（第１０期）推進状況報告書について、ご説明いたします。 第１０期江別市社会教育総合計画は、計画期間を令和６年度から令和１０年度までの５年間とし、社会教育行政の指針とするため策定しました。本計画の推進に当たりましては、各施策の実施状況等について、点検・評価と公表を行うこととしておりますので、令和７年度における「成果指標」の結果と次年度の推進の方向性について、ご報告いたします。 資料１ページをご覧ください。はじめに、「基本目標Ⅰ：地域全体で子どもを守り育てる体制づくり」でありますが、市では、家庭教育の支援等に取り組む団体と連携した講演会の実施や子育て支援施設の活用により家庭教育を支援したほか、青少年の健全育成に取り組む団体等の活動支援や育成団体との協働により、子どもたちに対し様々な体験活動の機会を提供してまいりました。結果としましては、成果指標１－①「家庭教育の支援に関する事業への参加者数」は、令和６年度に比べて増加し、１－②「家庭の教育力向上を支援するサービス等の利用者数」は、ほぼ横ばいの高い数字を維持しております。成果指標２－①「学校・家庭・地域の連携がとれていると思う市民割合」はやや増加し、２－②「地域団体等が主催する行事への参加者数」は、若干減少しているものの高い数字を維持しています。３－①「ボランティア活動や体験学習活動に参加する児童生徒の割合」は増加しており、資料２ページの４－①「子育て環境が充実していると思う保護者の割合」も増加しております。今後につきましても、関係団体や地域の人材、ボランティア団体等と連携した様々な体験・交流活動の機会を充実させるとともに、学校・家庭・地域が相互に連携しながら、地域全体で子どもを守り育てる環境づくりに努めてまいります。 次に資料３ページをご覧ください。「基本目標Ⅱ：持続可能な生涯学習の推進」でありま

	すが、市では、公民館や情報図書館をはじめとする社会教育施設について、生涯学習に取り組む市民や活動団体等に、安全で快適な学習環境を提供するため、適切な維持補修に努めてまいりました。また、社会教育関係団体が主体的に活動を展開していけるよう支援を行ったほか、市広報紙やホームページ、ＳＮＳなどにより、様々な学習機会の情報提供を行いました。結果としましては、成果指標１－①「生涯学習に取り組むことで、心の豊かさを実感している市民割合」は、令和６年度に比べるとほぼ横ばいでありましたが、１－②「生涯学習の施設が充実していると思う市民割合」、２－①「生涯学習の情報が充実していると思う市民割合」及び３－①「生涯学習の機会が充実していると思う市民割合」は、増加しました。今後につきましても、市民の主体的な学びを支援するため、市民ニーズに応じた学習機会や学習情報の提供、社会教育施設の計画的な施設整備を進めるとともに、地域に関わる多様な主体との連携・協働による学習活動を推進してまいります。 　次に資料４ページをご覧ください。「基本目標Ⅲ：文化・芸術による豊かな人間性の涵養と郷土の歴史の保存と継承」でありますが、市では、市民に質の高い文化・芸術を鑑賞する機会や幅広い活動の場を提供するため、音楽・演劇公演の開催や文化活動団体の事業に対し支援を行ったほか、郷土の歴史への理解を深めてもらうため、各施設において様々な事業を実施いたしました。結果としましては、成果指標１－①「文化・芸術活動に参加している市民割合」は、Ｒ６年度に比べるとわずかに減少し、２－①「過去１年間に文化施設を利用した市民割合」及び３－①「文化財や歴史遺産の活用により、個性豊かな文化が育っていると思う市民割合」は、ほぼ横ばいでありました。３－②「郷土文化・歴史を学ぶ事業の開催数」は、Ｒ６年度に比べて減少していますが、これは、小中学生への学習支援が令和６年度に集中したことによるものであります。今後につきましても、市民の文化・芸術活動への支援や鑑賞機会の充実を図るほか、郷土の歴史を継承していくため、歴史文化資源の保存及び利活用を推進するとともに、各種講座の開催等を通じて、地域文化の保存・継承に努めてまいります。 　令和１０年度の目標達成に向けた現状の推移でありますが、ほとんどの指標が順調に推移しておりますが、資料４ページの基本目標Ⅲの成果指標１－①「文化・芸術活動に参加している市民割合」が現状値の令和４年度と比べて減少しているほか、成果指標３－①「文化財や歴史遺産の活用により、個性豊かな文化が育っていると思う市民割合」は、横ばいとなっておりますことから、文化・芸術活動に触れる機会の提供や活動団体への支援、文化材等の活用などに取り組み、成果向上に向け努めてまいります。また、目標を達成している指標につきましても、引き続き、現在の成果の維持及び向上を図ることといたします。なお、本日、報告した内容につきましては、市のホームページにおいて公表いたします。 　以上です。
黒川教育長	ただいま報告のありました、令和７年度江別市社会教育総合計画（第１０期）推進状況報告書について、質問等がございましたらお受けします。 　（質疑なし） 　それでは、本報告について終了してよろしいですか。 　（一同了承） 　次に、報告事項（５）令和７年度江別市スポーツ推進計画（第７期）推進状況報告書についての報告を求めます。 　松井スポーツ課長お願いします。
松井スポーツ課長	報告事項（５）令和７年度江別市スポーツ推進計画（第７期）推進状況報告書について、ご説明いたします。 　第７期江別市スポーツ推進計画は、計画期間を令和６年度から令和１０年度までの５年間とし、誰もが健康で心豊かな生活を送ることができる生涯スポーツ社会の実現を目指すため策定しております。本計画の推進に当たりましては、各施策の実施状況等について、点検・評価と公表を行うこととしておりますので、令和７年度における「成果指標」の結果と次年度の推進の方向性について、ご報告いたします。 　資料の１ページをご覧ください。はじめに、「基本目標Ⅰ：生涯スポーツの推進」でありますが、市では、生涯、だれもがスポーツを楽しむための「する」機会を提供するため、多様な参加機会の拡充を図ったほか、トップアスリートとの交流等を通じて、スポーツを「みる」、「しる」機会を提供してまいりました。結果としましては、成果指標１「週１回以上スポーツ活動に親しむ市民割合」は、４７．６％となっており、前年度を上回る結果

	となりました。年代別に見ると、１０代・２０代及び６５歳以上の世代のスポーツ実施率が高い傾向にありますが、スポーツ実施率が低い３０代・４０代は仕事や子育てが影響しているものと考えられ、今後の課題と言えます。今後につきましては、スポーツ活動に親しむ市民割合の上昇を目指し、多くの市民がスポーツ活動に親しむことができるよう、市民ニーズを的確に把握し、関係機関と連携して魅力ある事業の提供に努めてまいります。 次に資料の２ページをご覧ください。「基本目標Ⅱ：地域スポーツ活動の推進」でありますが、市では、市内のスポーツ団体を統括する組織と協力し、市民が継続的にスポーツができる環境を整備するとともに、保護者や地域住民に対してスポーツに関する情報の提供に努めてまいりました。また、地域スポーツ団体が気軽に活動できる場所の提供などを通じて、地域のスポーツ環境の充実を図ってまいりました。結果としましては、成果指標２「スポーツ機会が充足していると思う市民割合」は、７５．８％となっており、前年度を上回る結果となりました。これは、学校の体育施設を開放し身近な地域において活動できるよう支援するなど、スポーツ活動の推進に努めたことから、増加したものと考えております。今後につきましては、各団体の活性化のため、スポーツ協会やスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等に対し、指導者育成等の支援や情報提供等の取組を継続して行い、地域スポーツ活動の推進を図ってまいります。 次に「基本目標Ⅲ：スポーツ施設の整備・充実」でありますが、市では、安全で快適なスポーツ施設の維持整備を計画的に進めているほか、指定管理者と連携し、市民の意見を取り入れながら適切な管理運営を行い、学校や民間施設と連携して施設の有効活用を図ってまいりました。結果としましては、成果指標３「スポーツ施設整備の満足度」は、７０．４％と前年度を上回る結果となりました。これは、市内の屋内体育施設は建築から４０年以上経過したものが多いことから、老朽化対策として、安全に配慮した改修整備を進めてきたためと考えております。今後につきましては、引き続き、市内体育施設の改修整備を行い、安全で快適に利用できるスポーツ環境づくりを進めるとともに、指定管理者と連携して利用しやすい施設運営と適切な管理を行ってまいります。 令和１０年度の目標達成に向けた現状の推移でありますが、すべての指標が順調に推移しており、引き続き、現在の成果の維持及び向上を図ってまいります。 なお、本日、報告した内容につきましては、市のホームページにおいて公表いたします。 以上です。
黒川教育長	ただいま報告のありました、令和７年度江別市スポーツ推進計画（第７期）推進状況報告書について、質問等がございましたらお受けします。 （質疑なし） それでは、本報告について終了してよろしいですか。 （一同了承） 次に、報告事項（６）江別市地域学校協働活動推進員のモデル校区への配置についての報告を求めます。 星野生涯学習課長お願いします。
星野生涯学習課長	報告事項（６）江別市地域学校協働活動推進員のモデル校区への配置について、ご報告いたします。 資料をご覧ください。地域学校協働活動の推進については、今年３月の定例教育委員会において、事業概要をご説明しているところですが、それ以降の取り組み等についてご報告いたします。地域の保護者やＰＴＡなどの幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して、学校を核とした地域づくりを目指す「地域学校協働活動」を推進するため、地域と学校をつなぐパイプ役となる「地域学校協働活動推進員」を１０月１日付けで委嘱し、モデル校区に配置します。モデル校区の選定に当たっては、小中一貫教育のもと、校区内の小中学校同士の交流が進み、地域の自治会や関係団体との連携が活発に行われている「中央中学校区」をモデル校区に選定しました。また、地域学校協働活動推進員の委嘱については、８月に制定した、江別市地域学校協働活動推進員設置要綱に基づき、中央中学校モデル校区内における対雁小学校の教頭経験を通して地域との繋がりを有する小松義幸さんを委嘱します。今後は、モデル校区において、これまでの学習サポート教員や地域住民・学生ボランティアによる学校支援を継続しつつ、モデル校区における優良事例を市内全域へと発信・普及させ、地域のニーズに合わせて、例えば、地域人材を活用したキャリア教育や制服リ

	サイクル、防災訓練など、さらなる地域学校協働活動の推進と効果や課題の検証を進め、全中学校区への推進員の配置を目指します。なお、江別市における地域学校協働活動の推進イメージについては、資料下段の図のとおりであります。 以上です。
黒川教育長	ただいま報告のありました、江別市地域学校協働活動推進員のモデル校区への配置について、質問等がございましたらお受けします。 （質疑なし） それでは、本報告について終了してよろしいですか。 （一同了承） 次に、報告事項（７）令和８年度小中学生国内交流研修事業についての報告を求めます。 星野生涯学習課長お願いします。
星野生涯学習課長	報告事項（７）令和８年度小中学生国内交流研修事業について、報告いたします。 資料をご覧ください。今年度の事業につきましては、１０月２０日から２３日まで、３泊４日で土佐市への訪問を予定しております。今回の参加者につきましては、記載のとおりでありまして、小学５年生が９名、中学２年生が３名、男子５名、女子７名の合計１２名です。引率者は、訪問団長に、野幌中学校の上田校長、児童生徒指導として江別太小学校の谷主幹教諭、大麻東中学校の水野教諭にお願いしております。また、担当の生涯学習課からは、村上青少年係長が同行いたします。主な事業内容につきましては、土佐市小中生宅へのホームステイと体験入学を行います。また、異なる文化や風土を体験するための施設見学や体験学習を行う予定です。詳細の日程は、現時点の予定として、２ページに記載のとおりです。現在、１０月の訪問に向けて、事前研修会を開催しており、北海道や土佐市に関する勉強のほか、発表の練習を行い、今後は１０月１５日の市長表敬訪問を経て、交流研修事業本番を迎えることとなっております。 以上です。
黒川教育長	ただいま報告のありました、令和８年度小中学生国内交流研修事業について、質問等がございましたらお受けします。 （質疑なし） それでは、本報告について終了してよろしいですか。 （一同了承） 続いて、２のその他、次回教育委員会予定案件及び日程について説明願います。 松井総務課長お願いします。
松井総務課長	次回の教育委員会の案件でございますが、報告事項として、令和９年度予算編成方針についてなどを予定しております。 また、次回の定例教育委員会の日程でございますが、１０月３０日金曜日午後４時からと考えておりますが、各委員の皆さまのご都合等はいかがでしょうか。
黒川教育長	ただいまありましたように、次回の定例教育委員会は、１０月３０日金曜日午後４時からということで、皆様よろしいですか。 （一同了承） 以上をもちまして、第９回定例教育委員会を終了いたします。 （閉会）

終了　午後５時３分

署名人（教育長）　黒川　淳司

署　名　人　　兼子　弘詔